

- 生産基盤を強化し、需要に応える生乳生産を行うとともに、持続的な成長・発展を図るためには、生産コストの低減や生産性の向上を図り、収益性の高い経営を実現することは引き続き重要。
- **競争力の高い酪農経営**として、**自給飼料の活用**や**ICT機械やロボット等の普及**、**外部支援組織等との地域連携等**による生産性向上や労働負担軽減に資する取組を積極的に取り入れるモデルを示す。
- 加えて、新たなライフスタイルや地域の活性化等に資するモデルとして**放牧等を活用**した経営モデルを示す。

土地条件の制約が小さい地域（主に北海道）

① 乳量を維持しつつ、集約放牧によりゆとりを確保し、加えてチーズの製造・販売により収入の増加を図る家族経営

☑飼養規模：経産牛80頭 ☑外部支援組織：酪農ヘルパー ☑新技術：搾乳ユニット自動搬送装置、ICT等を活用した草地管理技術

② 搾乳ロボット等により省力化しつつ、収益力の向上を図り、夫婦二人で可能な範囲で規模拡大を図る家族経営

☑飼養規模：経産牛100頭 ☑外部支援組織：酪農ヘルパー、コントラクター・TMRセンター、公共牧場（育成預託）
☑新技術：搾乳ロボット、自動給餌機、発情発見装置、分娩監視装置 性判別・受精卵移植技術

③ 飼料生産・調製や飼養管理の分業化・機械化等による省力化・効率化を通じ、規模拡大を図る大規模法人経営

☑飼養規模：経産牛500頭 ☑外部支援組織：コントラクター
☑新技術：搾乳ロボット（ロータリー型）、ほ乳ロボット、自動給餌機、発情発見装置

土地条件の制約が大きい地域（主に都府県）

④ コントラクターの活用等により省力化しつつ、つなぎ飼いで生産性の向上を図り、持続化・安定化を実現する家族経営

☑飼養規模：経産牛40頭 ☑外部支援組織：酪農ヘルパー、コントラクター、公共牧場（育成預託）又は広域預託
☑新技術：搾乳ユニット自動搬送装置、自走式配餌車、分娩監視装置

⑤ 搾乳ロボット等により省力化しつつ、規模拡大を図るとともに、性判別技術・受精卵移植技術を活用した効率的な乳用後継牛確保と和子牛生産により、収益性の向上を図る家族経営

☑飼養規模：経産牛100頭 ☑外部支援組織：酪農ヘルパー、コントラクター・TMRセンター、公共牧場（育成預託）又は広域預託、キャトルステーション
☑新技術：搾乳ロボット・パーラー、自動給餌機 ☑性判別・受精卵移植技術

⑥ 耕畜連携により経営の持続性を確保する大規模法人経営

☑飼養規模：経産牛200頭 ☑外部支援組織：コントラクター、公共牧場（育成預託）又は広域預託 ☑新技術：ほ乳ロボット、自動給餌機

酪農経営及び肉用牛経営の基本的指標②「肉用牛」

- 生産基盤を強化し、需要に応える牛肉生産を行うとともに、持続的な成長・発展を図るためには、生産コストの低減や生産性の向上を図り、収益性の高い経営を実現することは引き続き重要。
- **競争力の高い繁殖経営**として、**放牧・自給飼料の活用**や**分娩監視装置等のICTの導入**、**外部支援組織・酪農経営との連携等**による生産性向上や労働負担軽減に資する取組を積極的に取り入れるモデルを示す。
- **競争力の高い肥育経営**として、**自給飼料・未利用資源の活用**や**一貫化・地域の繁殖経営との連携**、**出荷月齢の早期化等**による生産性向上やコスト低減に資する取組を積極的に取り入れるモデルを示す。

繁殖経営

- ① 条件不利な水田等での放牧により省力化を図りつつ、適切な規模での効率的な飼養管理を図る家族経営

飼養規模：繁殖雌牛30頭 外部支援組織：コントラクター、公共牧場（放牧） 新技術：優良受精卵生産（酪農経営への供給）等

- ② 条件不利な水田等での放牧やキャトルブリーディングステーションの活用を通じ、省力化と牛舎の有効利用により規模拡大を図る家族経営

飼養規模：繁殖雌牛80頭 外部支援組織：コントラクター・TMRセンター、キャトルブリーディングステーション、公共牧場（放牧）
新技術：ほ乳ロボット、分娩監視装置、ICT等を活用した放牧監視技術等

- ③ 稲WCSを活用し、分娩監視装置やほ乳ロボットの導入、コントラクターの活用等により、分娩間隔の短縮や省力化等を図る大規模法人経営

飼養規模：繁殖雌牛200頭 外部支援組織：コントラクター 新技術：ほ乳ロボット、発情発見装置、分娩監視装置

肥育・一貫経営

- ④ 飼料用米等の活用や増体能力に優れたもと畜導入等により、生産性向上や規模拡大を図る肉専用種肥育家族経営

飼養規模：肥育牛200頭 外部支援組織：コントラクター、キャトルブリーディングステーション（素畜導入） 新技術：自動給餌機

- ⑤ エコフィード等の活用や肥育牛の出荷月齢の早期化、一貫化によるもと畜費等の低減等を図る肉専用種繁殖・肥育一貫の大規模法人経営

飼養規模：繁殖300頭、育成200頭、肥育500頭 外部支援組織：コントラクター・TMRセンター、キャトルブリーディングステーション（素畜導入）
新技術：ほ乳ロボット、発情発見装置、分娩監視装置、自動給餌機、起立困難牛検知システム

- ⑥ 肥育牛の出荷月齢の早期化による飼料費等の低減や牛肉のブランド化等により収益性の向上を図る交雑種・乳用種の育成・肥育一貫の大規模法人経営

飼養規模：肥育牛1000頭、育成牛430頭 外部支援組織：コントラクター 新技術：自動給餌機

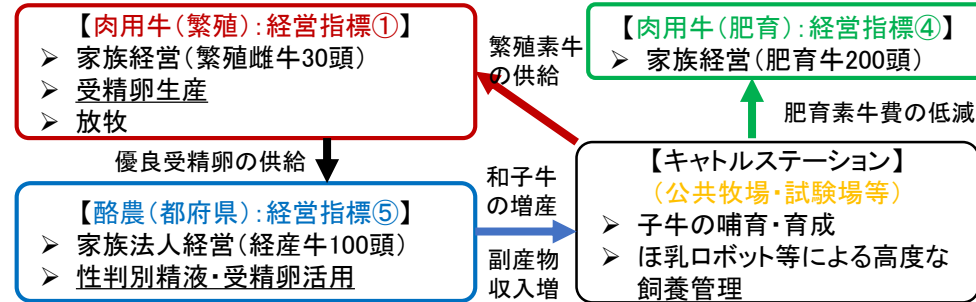
地域連携モデル

- 畜産経営には、飼料の生産・調製、飼養管理、家畜排せつ物処理といった**複数の生産工程**があり、**それぞれに高度な知識と技術が必要**であり、生産基盤強化を進めるためには、**地域の実態や課題に応じた関係者の役割分担や連携が重要**。
- このため、**①肉酪連携、②酪農経営の労働負担軽減、③肉用牛増頭・一貫化、④担い手確保**等の課題に応じた**地域連携モデル**を示す。（地域連携モデルには、経営指標のモデルを位置付け、連携の効果を経営指標に反映。）

【地域連携モデル①】

○ 肉用牛増頭と乳用後継牛確保を図るための地域連携の取組

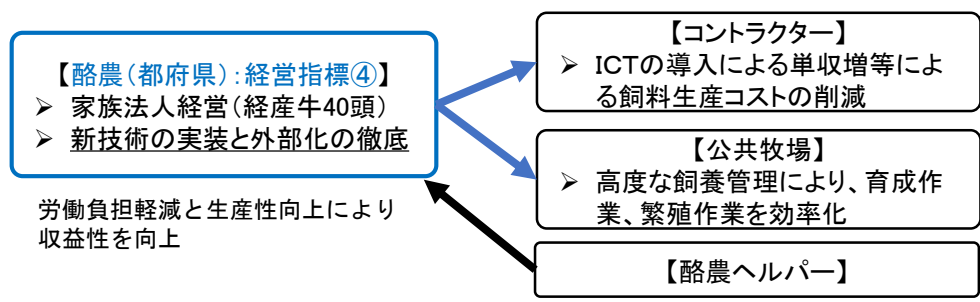
- ☑ 和牛増産を図るため、酪農経営を活用した和牛生産を行うため、優良繁殖雌牛から受精卵生産を行う
- ☑ 酪農経営は、性判別技術を活用し乳用後継牛を効率的に確保
- ☑ 生産された和子牛はキャトルステーションで効率的に育成



【地域連携モデル②】

○ 酪農経営の労働負担軽減等に資する外部支援組織の活用の取組

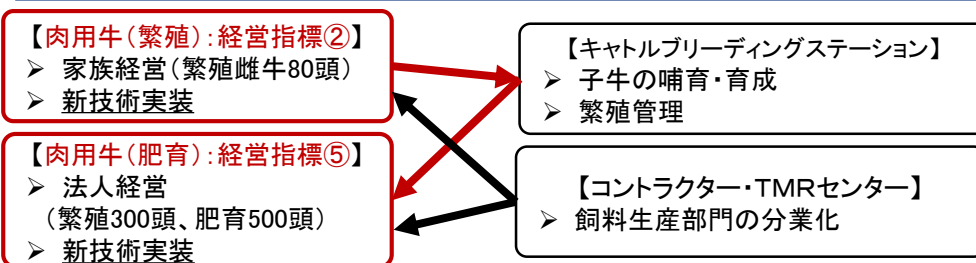
- ☑ 酪農経営の労働負担軽減と生産性向上を図るため、コントラクターや公共牧場(育成預託)を活用
- ☑ コントラクターはICT導入・単収増等により飼料生産コストを削減
- ☑ 酪農経営は、新技術を積極的に導入し、持続的・安定的家族経営を実現



【地域連携モデル③】

○ 外部支援組織との連携により地域で和牛の増頭や地域内一貫化を図る取組

- ☑ CBSを核として、繁殖経営の労働負担の軽減、生産性向上と肥育経営への肥育素牛の安定供給により、肉用牛の増頭を図る
- ☑ 繁殖・肥育経営ともに新技術を実装し効率的で収益性の高い経営を実現
- ☑ 飼料生産組織を活用し、飼養管理に集中



【地域連携モデル④(酪農)・⑤(肉用牛)】

○ 地域の担い手の確保を図るための経営資源継承の取組

- ☑ 法人経営が新規就農者を雇用し、技術や経営ノウハウ習得を支援
- ☑ 雇用就農期間中に独立に向けて、農協等が離農予定者とのマッチングや継承条件の調整を実施
- ☑ 継承物件の整備を行い、独立の際の初期負担を軽減
- ☑ 独立後、外部支援組織を活用し、飼養管理に集中

